

社団法人 おおさき青年会議所

2012 年度 50 周年記念事業プロジェクト

記念式典部会長 小 高 寿 也

基本方針

古川青年会議所が設立された 1963 年、宮城県立農事試験場古川分場、現在の宮城県古川農業試験場において「ササシグレ」と「ハツニシキ」の交配による「ササニシキ」が誕生した。当初、当時奨励されていた二毛作栽培での晩植に向けた安定多収品種を目指して開発が進められたが、二毛作の減少により普通栽培用の多収穫品種に目標を変更し、交配年次 1953 年から 10 年を経ての誕生であった。その後急速に普及し、当時の食糧増産に大きく貢献する。減反政策導入後は良質・食味米として評価され、東北地域の代表的な銘柄米となり、1990 年には「コシヒカリ」に次ぐ全国二位の 20 万 ha の作付け面積を記録する。しかし、1993 年の冷害や倒伏・穂発芽等の度重なる被害により収量・品質の低下を招き、作付け面積が急速に減少し、1994 年には全国作付け二位の座を「ひとめぼれ」に明け渡した。ササニシキ衰退の陰にはその良食味故の特性、あまり粘らないあっさりとした食感から、ブレンドすることによってどんな不味い米でもある程度の食味を確保できてしまうというテクニックに利用されてしまったことも見逃せない。結果、ブレンドされた「ササニシキ」の評判は下落し敬遠されるようになり、作付け面積も減少していった。しかしながら、ブレンドしていないササニシキ 100%の銀シャリは、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」にはない良さがあり、根強いファンがいることは事実である。

全ての品種に通ずる米づくりの本質はというと、「イネは土で作れ」と言われるように、米づくりの基本は土づくりである。適当に作ったとしても無難なものには仕上るが、基本である土づくりをサボっては決して良いものはできあがらない。長い年月をかけて大地を耕し続けることで毎年実りある収穫の秋を迎えることができる。米づくりの一年は地道な工程の繰り返しではあるが、年に一度しか結果を見ない米づくりは毎年新しいことの連続である。そこに工夫と努力、直感（感性）を注ぎ、オリジナリティを命とする一粒の米に想いを託す。

はたと気付く。青年会議所運動は米づくりと同じなのだ。

そこにテクニックを用いることなく、本来のあるべき姿を真摯に探求し続けることが重要である。また米づくり同様、先人達が耕し続けた大地において、その年次年次の収穫があることを忘れてはならない。

本年、50周年記念事業プロジェクト記念式典部会は、先人達が耕し続けた半世紀に及ぶその足跡をしっかりと辿り、また未来永劫に実りある収穫を迎えられるよう、大地を、心を耕し、その指針を示す事業を展開して参ります。